

平成29年度学校評価（全日課程）

本年度の重点目標	①心身の健康の保持及び規範意識・基本的な生活習慣の向上 ②確かな学力を身に付けさせ、進路希望の実現を図る ③部活動、生徒会活動、学校行事等のより一層の充実 ④保護者、中学校、同窓会、地域、産業界等との連携強化 ⑤実効性のある多忙化解消に向けた取組の推進		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	①仕事の効率化 ②PTAとの連携強化 ③国際交流の充実	①各業務の担当窓口を1本化し、責任の明確化を図る。 ②昨年度同様PTA（特にPTA役員）との連携を大切にする。 ③新たな国際交流の道筋をつくる。	①奨学金関係の業務が年々増えており、1人の担当で対応できる業務量を超えてきている。特に市町村の奨学金で学校を窓口としている一部の市町村には粘り強く個人対応をお願いしていきたい。 ②PTAとの連携については、今後も効率よく進める工夫をしていきたい。 ③国際交流については、運営資金の調達・校内組織づくりなど課題が多いが年度末までには道筋を立てていきたい。
教務部	仕事の精選とスリム化による効率の向上	①仕事を見直すことにより「無駄」をなくし、仕事の能率・正確性を向上させる。 ②他分掌とも協力し、過密な日程を解消する。	①時間割変更、出欠統計関係、考査関係の業務を見直し、仕事の精選を図った。変更するにあたって混乱が生じることなく、スムーズに運営できるように留意した。今後も続けていきたい。 ②実現に向けて検討を重ねている。
生徒指導部	①心身の健康の保持増進 ②基本的な生活習慣の確立（遅刻防止） ③身だしなみ指導の徹底	①スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターとの連携を密に図りながら、教育相談・特別支援教育を充実をさせ、全生徒の心身の健康を保持増進させる。 ②8時35分に教室へ入室、5分前登校の指導を継続する。 ③身だしなみ指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施する。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法を確認する。	①学級担任や学年主任と連携を図ることにより、諸問題に対し適切に対応できた。より迅速な対応と未然に防ぐ対策を講じていきたい。 ②各学年等における「8時35分入室」の指導は、適切に実施できた。しかし、遅刻指数は昨年度から倍増した。不登校傾向にある生徒の増加に伴うものではあるが、そのような生徒の対応を考慮し、目標設定をしたい。（遅刻指数：0.40、遅刻総数：386） ③身だしなみ指導について事後指導を受ける生徒は数名であり、指導の成果が着実に見えている。交通事故件数は昨年より倍増した。あらゆる機会に注意喚起していきたい。また、被害だけでなく加害者となる場合もあることを踏まえた指導を徹底していきたい。
進路指導部	学年と連携してのキャリア教育の展開	①1、2年生の生徒の進路意識を高めていくために、当該学年の教員とともに、生徒の実態に即した進路講演会（保護者の参加も促す）を計画したり、適切な情報提供を行ったりする。 ②3年生の生徒の進路実現を達成させるために、生徒や教員に対して適切な情報提供に努め、進路講演会などを当該学年と連携を図りながら企画・運営し、フリーターを出さないようにする。	①1、2年生では、進路行事を重ねることに生徒の進路意識が高まり、学習意欲も高まって、進路研究に熱心に取り組むようになってきている。 ②3年生の就職希望者については、すべての生徒が適性にあった希望のところへ進むことができた。3年生の進学希望者については、担任の熱心な指導と学年所属の先生方の支援、並びに進路部との連携により、良い成果を収めつつある。
保健厚生部	心身の健康を保持するための体制の充実	①健康観察の充実 ②救急体制の充実—シュミレーション研修の実施— ③スクールカウンセラーの有効活用	①今年度は健康観察表に保健委員の観察結果を報告する欄を設け、その報告も活用することができた。今後も様々な場面で職員が生徒の健康状態を把握できるように記録方法について検討中である。 ②実際の緊急時に生徒が指示に従って迅速に行動できた。さらに実践で役立つよう状況別の対応方法も生徒に学ばせたい。 ③年間で2日の追加があったが、月1回のカウンセリングでは対応できないほど相談件数が増えている。月1回ではカウンセラーの負担が大きいため、相談日を増やすことはできないだろうか。
図書情報部	地域への積極的な情報発信	①学校新聞を通して近隣の中学校に大府高校の特徴を積極的にアピールする。 ②ホームページをより充実させ本校の生徒だけでなく地域への情報発信を活発にする。	①学校新聞は写真を多く取り入れ中学生にも見やすい内容で大府高校の特徴を上手く紹介することができた。 ②ホームページは更新頻度・スピードとも前期同様順調に進められた。ただ、これは今年度の担当者がICT機器に精通した分掌職員で不具合にも迅速に対応できた点大きい。またトビックス更新をさらにスムーズにするために今後は校内の手順を見なおす必要も検討していきたい。
生徒会部	生徒会活動における生徒の主体性の向上	①早期段階における文化祭企画への職員の積極的な支援を促し、文化祭成功につなぐ。 ②体育大会における職員、生徒間の情報共有と協働へと導く。 ③学校行事を安全かつスムーズに運営するために施設、設備の点検、改修を継続する。 ④学校祭実行委員の育成と執行部との連携強化を促す。	①文化祭直前及び当日の生徒会担当教員や執行部員の負担軽減が課題。校内巡回、後片付け、保護者対応など学校の組織の中で分担することで文化祭の一層の充実が期待できると思う。 ②体育大会当日の相互連携が課題。各分担の主任同士の話し合いが必要。 ③概ね良好。今後も継続。 ④概ね良好。次年度の生徒会選挙にうまくつないでいきたい。
生活文化科	知識・技術の定着と学校・地域への貢献	①個別指導や自主学習の時間・場所を確保し、授業や各種検定に向けて指導の充実を図る。 ②学校行事や地域イベントに積極的に参加し、学習発表の場にとともに生活文化科や学校家庭クラブの周知を図る。	①今年度も全員合格に向けてさまざまな指導を実施したが、昨年度に比べ合格率は下がった。検定の受験時期は他の行事とも重なり、短い時間の中で合格レベルまで指導していくのは年々難しくなっていると感じた。確実に知識や技術が定着するような授業展開を考え直さなければならない。 ②例年同様、校外ボランティアに参加した。しかし、校内での認知度は教員・生徒ともに低いように感じる。校内で普通科の生徒も参加できるような学校家庭クラブ活動を企画したい。
第一学年	基本的な生活習慣と学習習慣の確立	①面接や相談、声かけを充実させ、生徒の心身の健康状態を把握・保持する。 ②時間・規律・期限を守り、コミュニケーションの第一歩である挨拶を気持ちよくすることができる集団を育成する。 ③授業を真剣に受けることのできる環境を整え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ④保護者との連絡を密にし、こまめな情報交換を心がける。	①④2学期以降、不適応を起こす生徒もいたが、担任や養護教諭、教科担任、保護者との協力により数名の生徒がクラスに復帰できた。次年度への引き継ぎを漏れなく行い、注意深く観察して生徒の心身の健康状態の把握・保持に努めたい。 ②8時35分入室は年間を通して概ね良好であった。正副室長による呼びかけを促し、生徒同士でも時間や規律を意識する習慣をつけさせることができた。 ③毎日の学習記録や、課題未提出者の居残り指導を行い、家庭学習の習慣の確立に努めた。まだ家庭学習が確立していない生徒もいるため、今後も指導を充実させていきたい。
第二学年	進路目標の設定と学習習慣の定着	①進路意識の高揚のためにLTや総合的な学習の時間を活用して、調べ学習や外部講師による講演会の開催など、類型に合わせた具体的な働きかけをしていく。②学習記録による生活の振り返りや週末課題・小テストによる学習内容の具体的な指示により学習習慣の定着を図る。また、校外模試を有効活用し結果について分析をさせる。	①英単語コンテスト、古文単語コンテストを学年行事として実施。結果への関心も高く受験勉強を取組むきっかけとして一定の効果が得られた。進路研究では3学期に総括できるような進路学習の時間が十分にとれるようになる。 ②朝補習や夏季・冬季の学習会において、各教科が応用的要素を積極的に取り入れ、実力向上を意識した指導を行い、上位層のレベルアップに一定の効果が得られた。しかし様々な原因により申し込み人数が増えなかったのが課題である。
第三学年	「生徒の適性に合った進路指導」の実現	①面接等を充実させ、各生徒の「進路希望・学力・その他の状況」のより正確な把握に努める。 ②進路希望実現のため、各生徒の学力を向上させる。 ③様々な情報を共有し、それが有効に活用できるよう、方法の改善を試みる。 ④（②③のためにも）学年と進路指導部や教科との連携をより密にすべく工夫を加える。	①③④1年を通して、各生徒の成績や進路希望の推移などの情報を校内ネットワークで共有することができた。それを適切に活用することで、担任の指導はより効果的なものとなり、各時期の検討会も充実したものになった。ただ、校外模擬試験の結果を即時に分析、還元して教科との連携を深めるという点には、まだ工夫の余地も多く、来年度の課題とした。 ②期末考査後は、教育課程の見直し前の補いとして、各生徒の進路実現に合わせた特別時間割を編成し、センター対策や二次・私大対策など、照準を絞った指導ができたように思う。冬季セミナーは生徒の取り組みも概ね良好であった。補習全体の反省も踏まえ、来年度に引き継いでいきたい。
いじめ防止対策の推進	①いじめの未然防止に係わる取組の充実 ②いじめの早期発見、適切な事案対処	①ホームルーム活動等において、いじめ防止をテーマとした活動を行い、生徒が主体的に考える機会を設ける。 ②いじめ・不登校対策委員会の内容を教員間で共有する。 ③いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見・適切な対応につなげる。	①外部講師を招き、SNSの不適切な使用により、いじめや人権問題に発展するケースについての講話を実施したことにより、生徒自身が主体的に考える機会となった。 ②③いじめの疑いがあると思われる場合は、職員間で情報を共有し、迅速かつ組織的に対応し、再発防止に努めていきたい。